ボーイスカウト東京第四団

機関紙

No. 82

Oct. 1, 1967

スマイル

微笑

笑いの不足は、健康の不足を意味する。出来るだけ多く笑え。そうすれば、丈夫になる。おかしくなったら、いつでも笑いつづけ、出来たら、他の人達まで笑わせる。そうすれば、その人たちも幸福になる。

もし苦しいこと、つらいことがあったら、そのことに向かってにっこり笑え。このことを忘れず、無理にでも笑っているうちに、気分が一変することに気づくだろう。

『探険家』キャプテン・ジョン・スミスのような、偉大なスカウトの伝記を読んでみると、彼等は、概して、快活な老人であったことがわかるだろう。

普通の少年は、激しい肉体運動をする場合、しかめ面をするが、ボーイスカウトは、どんな時でもにこにこしている。しかめ面をすると、点が減る。

（スカウティング　フォア　ボーイズより）

ジャンボリー報告記 (1)

ジャンボリーを支えたもの

副団委員長 杉原 正

七月二十九日朝、スポーケンの古びた、何ともいえないムードをもっているホテルで朝食をとった後、いよいよ目指すファラガット州立公園へ出発した。予定より早くジャンボリー会場に着く見込みなので近くのポンダ・オレイユ湖でひと休みした。そこでモーターボートを借りてスカウトに湖上めぐりをさせようと、貸ボートを探したが生憎なかった。

あきらめかけていると、人の良さそうなおじさんが側にやってきて〃お前達はジャンボリーにきたのか。それじゃオレのボートに乗せてやるから皆んなこい〃 こいといっても多勢だからと思いながらついて行くと、二、三十名は乗れそうな豪華な船である。八〇〇馬力、豪い速力で走る船で、自慢の程のようだった。他にもまだ船を持っているという。湖上を見ると他のボートにもスカウトが一杯乗っていた。運転をしながら色々な説明をしてくれた。

湖上に標識があるので近づくと、すぐ沿岸警備艇がやってきた。この先はジャンボリーで使うところだから入ってはいけないという。スゴスゴ引き返し始めると、追いかけてきて〃お前達は日本のスカウトか〃〃それじゃオレについてこい。案内してやる〃といって水泳場、カヌー・ボート場、魚釣り場を船でまわった。〃お前達がこの施設に公式に入る最初の外国スカウトである〃と担当官は云っていた。スカウト関係者に限らずこのジャンボリーを成功させようとしている蔭の協力者が方々にいたわけである。一万五千人のスカウトの為にチャックワゴン（野外パーティ）に奉仕をしていた人々、夜中にサイトの塵あつめをしていた人々等。我々の目にはふれないようにして常に世話をしてくれた人々が沢山いたのである。

感心したことがたくさんあるが、その一つにあれだけの規模のジャンボリーをしたのであるから相当、軍関係の協力があったに違いない。しかし彼らの姿が私達の目にはふれなかったことである。勿論スカウト関係者に、軍の関係者が多数いたことは事実であるが、参加した者にとっては、いつもスカウトが奉仕をしてくれているという感謝の気持で、本当に心地よいジャンボリー生活を過ごすことができたのである。

各隊夏期キャンプ報告

C・S

年少隊副長 内藤 正樹

去る七月二一日～二四日まで、年少隊は、秩父郡大滝村の一画にある秩父ユースホステルで、リーダー一一名、スカウト三五名、父兄数名を交えて三泊四日の夏期隊キャンプを行なった。

今回のキャンプで一番目立った事柄は、リーダーのキャンプに対する準備が不足であったように思える。これは、リーダーの大部分が変ってしまった為に、熟練者がいなく、未熟者 ぞろいのため、手のゆきとどかなかった面が多くあったのではないだろうか。しかしながら、その反面、リーダーとスカウトとの親近感が、急激に増したように思える。これが、今回の非常に大きな成果だと思う。

キャンプにおいては、二日目のピクニック中に、ハチの群と合流したため、リーダー二名、スカウト一名が被害を受けてしまった。また、三日目の午後ユースホステルの水道ポンプが故障した為それ以後節水しなければならなくなってしまったことは、非常に辛かった。そのような事柄が発生した以外は、全般を通して楽しいキャンプだったと思う。

BS　少年隊隊長　柳　健一

今年のBSのキャンプはジャンボリーの次の年なので、基本をみっちりやろうと思い野営場を山中に選びました。スカウトの参加数が二二名であったこと、野営場の設備が良い事、リーダーが豊富であった事等々の要因で、かなりよくまとまったキャンプが出来たと思います。以上の条件を考えて今年はプログラムの中に、シニアのキャンプで行うプログラムを二、三入れてみました。いただ組み、リンツーによる一泊の移動野営、にわとり料理等々がそれです。はじめリーダーの間ではこれ等のプログラムが、うまく遂行出来るかどうか心配しておりましたが、実際行ってみて、少年隊でも準備さえしっかりしていれば充分行なえる事の自信を得ました。このことは今後の通常のプログラムへの一つの指針になりました。

以上の事を考えて、今年度のプログラムを、従来の水準より少し高めた内容にすることによって、少年隊の集会を、楽しいものにしたいと思っております。

SS　年長隊隊長　日下部英一

昭和四二年八月一日より六日迄、伊豆半島の西海岸、戸田港より修善寺経由、熱川までの移動野営を行い、熱川に於いては、二人一組の一泊ハイキングを含む、三泊の固定野営を行いました。

参加スカウトは、授業等の関係で、全員が全行程に参加できなかったが、延九名(スカウト)、リーダー、百塚君、針替君、及び私が途中より参加の為、特にBSの大内君に援助を御願いしました。

今迄のキャンプと違い、キャンプ場にテントを張るのではなく、自ら開拓する、そして移動もすると云う、厳しいキャンプの中で、スカウト諸君にとっても、又リーダーにとっても、勉強になった野営ではないかと思っています。

怪我人もなく、蜂に咬まれることもなく無事に出来たのは、御父兄の援助もあり、特に渡辺君の御父様の御紹介で使用させていただいた熱川のキャンプ地、紙面をかりて、御礼申し上げます。

そしてスカウト諸君には、来年のキャンプに備えて、準備を怠らないように。

RS　青年隊メイト　内藤正樹

今年の夏期、青年隊の主だった活動内容は次のようである。

一、七月二〇日(木)～二四日(月)まで、年少隊秩父隊キャンプに　一名

一、七月二四日(月)～二九日(日)まで、ガールスカウト(B)、上級スカウト合同富士見高原キャンプに　三名

一、八月七日(日)～一〇日(木)まで、ガールスカウト(A)奥多摩キャンプに　二名

一、八月一〇日(木)～一五日(火)まで、少年隊、山中キャンプに　一名

このように団内奉仕が続いてあったため、青年隊が夏期に行なう、野外、隊ミーティングを行なうことが出来なかった。しかし、八月一二日(日)～一五日(火)までの間、希望者だけで、軽井沢でのミーティングを行なった。その軽井沢ミーティングには、アドヴァイザー一名、青年隊員五名参加した。このミーティングは、青年隊にとって、意義ある事だったと思う。その他の活動は八月二〇～二二日までの教会全体修養会に一名参加し、また九月のキャンプファイヤー準備のため、八月後半は活動出来なかった。来年の夏は、団外奉仕にも、もっと力を入れたいと思う。

山中湖キャンプ

ドッグ班　杉田憲彦

八月十日いよいよ待ちに待ったキャンプの日が来た。今度のキャンプに僕は、次長と三日目からの班長代理という重大な責任がかかっている。はたして僕にうまくできるかという不安な気もした。

八月十日才一日目、午前中約五時間バスにゆられて目的地、山中野営場に到着。昼食をとってさっそく設営にかかる。便所、テント、かまど、ごみ穴、おもなものは今日中に仕上げなければならない。人数の少ないドッグ班にとってはきびしくつらかった。何とか班サイトの形が整うとすぐに夕食のしたくだ。まったく休む暇がない。またこの日は火がなかなかつかなくてこまった。この調子じゃこれから先、どうなるのかなあ、と思うと、もうホームシックにかかったような気がした。みんなも、つかれたらしく、動作がおそくなる。そのたび班長が、「何をもたもたしてるんだ」と、どなる。こんな事を何回かくり返している間に夕食ができあがった。カレーライスだ。僕達のは、ちょっとカレーじるみたいになってしまったが、おなかがぺこぺこだったのでとてもおいしかった。消燈になるとみんなすぐにねむってしまった。

八月十一日才二日目、午前中はクラフトだった。きのうできなかったものをいそいで仕上げた。きのうせっかく、くくった立ちかまどがぶったおれてしまった。しかたないから、はり綱を張って固定した。午後、ちょっとしたゲームをやった。この野営場の中を各班ごとに見学して、そのついでに知っている草花を取ってくるというゲームだ。僕達の班には花に強い者がいないので、草花の名前なんか全然わからなかった。わかったのは野いちごくらいだ。おいしかった。それから夕食の島料理の講習があった。おしりの穴から手をつっこんで、内臓を引きだすなんて気持が悪くて、できなかった。でも、なかなかおいしかった。夜、班営火をやった。どこの班でも歌ばかり歌って歌合戦みたいになってしまった。

八月十二日才三日目、午前中、久しぶりに、あばれるゲームをやった。足に巻きつけてあるひもを取るゲームだ。けっとばしても、ぶったおしてもいいという乱暴なゲームだ。こんなゲームは今までやったことがない。終ったあとは気分爽快だった。午後、ハイキングに行った。山中湖を船で渡ってそこから班ごとに行った。途中で二級以上はリンツ野営に行くため、初級と別れた。僕は班長と組んだ。重い荷物をしょって山道みたいな所を登った。きびしかった。だからこの時の夕飯はかくべつおいしかった。僕はリンツ野営は、はじめてだ。だから楽しみにしていたが、夜、雨が降りだした。リンツの中はせまいのでシラフがしめってしまった。夜中もろくにねられなかったしとんだめにあった。もうたくさんだと思った。

八月十三日才四日目、朝四時半起床、又重たい荷物をしょって山に登った。リュックをしょって山に登るのは、はじめてだ。でもそれほど苦しくなかった。頂上まで行ったわけじゃあない。そこで、水準点をさがすゲームをやった。でもみんなくたびれているので、まじめにさがさないですわりこんで話をしていた。そしたらリーダーに見つかってしまった。ここで、初級と合同して磁石ハイクで野営場にもどった。午後しっぽ取りをした。この前のゲームは負けてしまったが今度は勝った。リーダーもみんな入ってすごい戦いぶりだった。夜、キャンプの行事の一つになっている、大営火をやった。大営火の前、班長は用事で先に帰ってしまった。僕達は御フランス式スマー

トになる方法という劇をやった。
八月十四日オ五日目、朝っぱらから雨が降っていた。雨の中でご飯を作るのは始めてだ。かまどをフライの中に掘って朝食を作った。まきが多少しめったようで火つけにちょっと困った。朝食がすんだころ雨はやんでしまい、午後山中湖でいかだ作りをした。二班で一つのいかだを作った。ドラムかんに太い木をゆわいつけて作る。いいかげんに作ったりすると湖の中でバラバラになってしまうからみんなまじめだ。どうやらバラバラにならずにうまくいった。もちろんいかだ作りは生れて始めてだ。自分達の手で作ったものに乗ってうまく浮いた時はとてもうれしかった。湖を一周してみたいなあとも思った。こわすのがもったいないような気もした。
八月十五日オ六日目、いよいよ帰る日が来た。それなのに朝からひどい雨が降っていた。徹営の時も雨の中で、かまどをこわしたり、便所をうめたり大変だった。小雨になった時をみはからって、いそいでテントをたたんだ。グランドシートもテントもどろだらけになってしまった。もう早く帰りたくてたまらなくなった。制服までぬれてしまった。午後一時半、野営場とお別れした。今度のキャンプは今までにやらなかったリンツ野営をしたり、いかだ組みをしたり、いい勉強になった。又、最初のうちは優秀班を取ったのに、最後の方になって、ウルフに逆転されたのは残念だった。ちょっと僕がどなりすぎたため班内の明るさがなくなってしまったためかもしれない。とにかく班内のチームワークが最後になってくずれてしまった。今後はそういう事がないように僕自身も気をつけるが班員も、もっと積極的にもの事をやるようにしてもらいたい。

カブキャンプ

三組　大内真人

夏休みになった七月二十一日から二十四日まで、ぼくたちカブスカウトのキャンプがありました。ぼくはカブにはいってはじめてのキャンプだし、お母さんのそばをはなれるのがいやでキャンプにいく日はとてもさびしかったです。お母さんが朝早くからおべんとうを作ってくださいました。そして上野えきまでおくってくださいました。えきへついたらカブスウトの大きいお兄さんが、「おもいだろう、もっていってあげるよ。」といってリュックをもってくださいました。ぼくは、とてもしんせつだなあと思いました。でんしゃがしゅっぱつするとき、みんなわらって手をふってくれましたが、ぼくは少しさびしかったです。とちゅうのけしきはいいながめでした。むこうについたらさびしくなりました。つぎの日はピクニックがあるのでとてもうれしかったです。つりばしをわたる時、ゆらゆらゆれるのでおっこちないかと思いました。そのつぎの日は日ようなのでお父さんやお母さんがさんかんにくる日でしたが、ぼくのうちはだれもきませんでした。だけど明日は、かえる日なので元気がでました。おなかがいたかったけれど夕方には少しなおりました。でもキャンプファィヤーにはでられなくてざんねんでした。ぼくは二階のテラスからみていました。キャンプファィヤーの火がみんなのかおを赤くして、たのしそうにみえました。かえる日、ぼくは、よくやったというしょうをたい長からもらってとてもうれしかった。上野えきにつくとお母さんが、おむかえにきてくれて、「なかないで元気にやれたの」ときかれました。ぼくはシーツを一人でたたむのがいやだし、ごはんがおどんぶりいっぱいあるので、こまるけど、あとはたのしかったなあと思いました。

報　告

＝団会議＝　九月九日　於階下講堂

出席者十四名

一、各隊夏期行事報告

一、備品管理の件　百塚（シニア）、大内、臼井（ボーイ）が担当。

一、教会とのつながりについて
飯先生、美藤先生を迎えて指導者と修養会の様な会を持ちたい。

一、隊記録、個人記録用紙購入によって事務処理を徹底させる。

＝団委員会＝　九月二十三日　於客室

出席者十九名

一、世界ジャンボリー報告（杉原）

一、各隊行事報告

一、昭和四十二年度育成費予算案検討

＝人事往来＝

青年隊隊付に、万石俊夫、関口敦夫、古矢拡一が任命された。

行事予定

十月十四日　青年隊五周年記念式典

十月十五日　クリスチャンスカウト協議会　於中目黒教会（指導者一名参加）

十月二十三日　キリスト教教育大会　会場整理奉仕（BS・GS）

十月二十八日　教会バザー参加

十一月十一日ー十二日　東京連盟合同訓練大会　於明星大学

バザーの御案内

十月二十八日(土)　十時〜四時

おなじみの教会バザーです。

食堂
献品
手芸作品
ゲーム

その他、素晴しいものがたくさん!!

どうぞ、おさそい合わせていらして下さい。

✿投稿歓迎✿

スマイル編集部では
スカウト、リーダー、ご父兄の皆さまからの原稿を心からお待ちします。
みなさまのスマイルです。
ふるってご応募下さい！

<<編集後記>>

身体ごとぶっかったキャンプの夏がすぎました。きたえられた身体を、今度は頭脳的に働かせ実りの多い秋にしたいものです。スマイルの夏期行事報告を通して四団の夏の動きを身近に感じていただけたかと思います。これこそ我らの四団と、みなさん一人一人の心の中に愛団の心がますます育つように、大家族の中の橋渡しとしての機関紙になればと思っています。良い案がありましたらお知らせ下さい。

スマイル　才八十一号
発行日　昭和四十二年十月一日
発行人　田中正男
編集人　杉原　正
発行所　港区赤坂一ー一三ー六
日本ボーイスカウト東京才四団